

令和5年度第1回厚木市環境審議会生物多様性あつぎ戦略推進部会会議録

〔会議主管課〕 環境農政部環境政策課

〔日 時〕 令和5年8月25日（金）14時から16時まで

〔場 所〕 あつぎ市民交流プラザ（amyuあつぎ）

〔出席者〕 厚木市環境審議会生物多様性あつぎ戦略推進部会委員 8人
環境政策課長、環境政策課環境政策係長、ほか事務局2人

1 開会

2 案件

(1) 2050年の目指すべき将来像及び2030年目標について【資料1-1】

(2) 戦略の基本目標について【資料1-1、1-2】

(3) 序章第1節の内容について【資料1-3】

(4) その他戦略全般に盛り込む事項について（意見交換）

※ 委員の皆様から自由に御意見いただきたいと考えています。

3 その他

4 閉会

案件は次のとおり

土屋部会長	<p>それでは、案件に従いまして (1) 「2050 年の目指すべき将来像及び 2030 年目標について」事務局から御説明をお願いします。</p>
佐藤副主幹	<p>《佐藤副主幹説明》</p>
土屋部会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、皆様から御意見ございましたら、お願いします。</p>
新谷委員	<p>現行の戦略は、短期、長期の目標があったと思いますが、次期戦略は世界的な流れに沿って、目標や全体の考え方を決めていくのでしょうか。</p>
佐藤副主幹	<p>世界目標や国家戦力に沿って、現行戦略の全体的な見直しを図りたいと考えています。</p> <p>2050 年の将来像は、現行戦略では、1 番の「未来へつなげよう自然のめぐみと暮らすまち あつぎ」となります。1 番も含めて将来像を再考するというところです。</p> <p>また、現行戦略では 2020 年を短期目標としており「生物多様性の損失を止めるための行動を推進」となっています。次期戦略では、先に閣議決定された国家戦略においても 2030 年を 1 つのマイルストーンとしていますので、2050 年と 2030 年の 2 段階で、目標を置きたいと考えています。2050 年は将来像、2030 年はその手前の目標像という形のイメージをお諮りできればと考えております。</p>
神崎委員	<p>3 つの候補から 1 つ選ぶという形でよろしいでしょうか。</p>
佐藤副主幹	<p>事務局案として 3 つ出しましたが、必ずしも 3 つの中からお選びいただくというわけではなく様々な意見をいただいて、最終的なものを決めていければと考えています。</p>

向山課長	<p>1の1「未来へつなげよう自然のめぐみと暮らすまち あつぎ」というのが、現行戦略の将来像でした。</p> <p>次期戦略ではまず、「未来へつなげよう自然のめぐみと暮らすまち あつぎ」という将来像を見直すか見直さないかというところがございます。事務局といたしましては、現行のものはキャッチフレーズのように感じており、将来都市像のようなフレーズと合わないと思い議題とさせていただきました。そうした中で、一案として出したのが1番をベースにした2番の「生きものがあふれ」というところがございます。3番はゼロベースで見直した案でございます。</p>
窪田委員	<p>「未来へ」という部分に違和感があるので、1番を候補から外すということに賛成です。2番か3番をそのまま使うのも違うと思っています。2番目の「生きものがあふれ」という表現がありますが、外来種や害獣対策に触れてくるので、あふれているのは違うと感じました。もし、「生きものがあふれ」を表現するのであれば、「全ての生命が生き生きとし」のような表現が良いと思いました。3番目は生物多様性という言葉自体が硬く感じてしまうので、これを使うのであれば2番の表現の方がよいと感じます。</p> <p>ネイチャーベースドソリューションという考え方がありますが、自然と社会と双方が良い状態に向かっていくということを考えると、2番を「自然のめぐみと暮らすまち」より「自然のめぐみを育むまち」のような形にすると良いかと思いました。</p>
菅委員	<p>今の御意見は、すごく良いと思います。これからは、自然と共に生きるということがテーマになり、それが達成すると生物多様性がうまく循環していくと思います。今の御意見に加えて「共に生き、自然のめぐみを育むまち あつぎ」も分かりやすいと思います。</p>
佐藤副主幹	<p>自然と共に生きていくというところは、国家戦略の2050年ビジョンでも「自然共生社会」という形で、人間と自然が共に生きるような社会というのが一つの理想像になっています。いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>

	<p>今のところ「全ての生命が生き生きとし、自然のめぐみを育むまち あつぎ」と「共に生き、自然のめぐみを育むまち厚木 あつぎ」という御意見をいただきました。</p> <p>後半の「自然のめぐみを育む」という部分はそのままでよいという御意見が多いと感じています。</p>
船本委員	<p>後半部分の「自然のめぐみを育むまち あつぎ」だけでも良いと思います。</p>
新井委員	<p>「自然のめぐみを育むまち あつぎ」が良いと思います。</p>
神崎委員	<p>良い文章でも長いと覚えきれないので短い方が良いと思います。</p>
土屋部会長	<p>そうしましたら、「自然のめぐみを育むまち あつぎ」を仮決定という形にしまして、次回の部会で御意見等ありましたら、お持ちいただいて検討するという事でいかがでしょうか。</p>
小宮係長	<p>はい、そのようにさせていただきます。</p> <p>ありがとうございます。</p>
土屋部会長	<p>続きまして、資料1-1の2「生物多様性あつぎ戦略の2023年の目標について」について事務局から説明をお願いします。</p>
佐藤副主幹	<p>《佐藤副主幹説明》</p>
土屋部会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、何か御意見がございますでしょうか。</p>

青砥委員	<p>この3つの中では、3番は系統が少し違うように感じます。厚木市には、まだ自然が残っていて、少し手を加えれば戻ってくる生きものもたくさんいると思います。そういう面で言うと、3番は結構市民に訴えるのに良いかという感じがします。</p>
土屋部会長	<p>私が幼いころは、市が小鮎川と荻野川で蛍の見学会をやっていました。最近では、下水が綺麗に整備されたこともあり、鮎が林辺りまで上がってきます。植物や花なども咲いているところが多くありますし、結構復活してきていると感じます。3番の「実感できると」や「また会える」という表現は、結構良いかと思います。</p>
小宮係長	<p>ありがとうございます。そういった思いは、3番には色濃く盛り込んでいます。</p>
神崎委員	<p>恩曾川の近くも結構都会になってきましたが、田んぼには、シラサギや昔の生きものが戻ってきています。3番の「懐かしい」という表現はすごく良いと私は思います。</p>
窪田委員	<p>2050年に対して、直近の目標とすると、まずは生物多様性の意味を理解しているということが大事だと思います。生物多様性という言葉自体に馴染みがないので、ネイチャーポジティブに向けては、生物多様性がどのように気候変動と組み合わせさせて、私たちの未来にどのような影響をもたらすのか、理解している人は少ないと思います。3番の「懐かしい生きもの」は表現がすごく素敵だと思いますが、まずは生物多様性を理解してみんながそれを大事と思っている社会が中間地点だと思います。</p>
新谷委員	<p>3番が将来像と近いような印象を受けます。 ただ、将来像の達成に向けた目標とするならば、もう少し具体的な目標の方が合う気がします。</p>

小宮係長	<p>ありがとうございます。</p> <p>市民の皆様の認知度や理解というのは、まだ足りていないところがありますので、そこを高めていきたいという事務局の思いもでございます。</p> <p>市民の理解を高めることを目標として置くとすると、提案させていただいているどれにも当てはまりませんので、よろしければ、皆様から出していただいた御意見やキーワードを盛り込む形で再検討し、次回お示しできればと思います。</p>
土屋部会長	<p>それでは、次の（２）基本目標について事務局から説明をお願いします。</p>
佐藤副主幹	<p>《佐藤副主幹資料に基づいて説明》</p>
青砥委員	<p>この基本戦略１、２、３の書き方は、市民はこうあるべきというような、上から目線であると強く感じます。</p> <p>基本戦略のうち、１、２というのは、割と貴重な生き物に向けた状態目標に思えますが、生物多様性は多種多様な生き物が、生態系の決まりに則って、うまく存在することだと思えます。</p> <p>例えば、私たちの衣食住というのは生物多様性に依存しています。それをどれだけ感じているかということをも一つの目標にすることで、生物多様性が大事だということを認識させるための必要なことにつながると思います。</p>
小宮係長	<p>状態目標としては市民の皆様が生物多様性の重要性やめぐみを理解し、感じるものを具体的に取り入れるというところでしょうか。</p>
青砥委員	<p>それを書いていただけると、難しい生物多様性という言葉も認識してもらうためにも大事だと思います。</p>
窪田委員	<p>この別紙フローの中に、それぞれの基本戦略の例示があった方が分かりやすいと思います。例えば、生き物の生息生育環境</p>

<p>新谷委員</p>	<p>が向上すると、こういう良いことがあるということを文章の中にはたくさん書いてありますが、それとは別にフローの部分にも書いた方が分かりやすいと思います。</p> <p>現行戦略は、現状と課題のところは、文章で長く書かれていたと思います。今回は、序章の部分で現状と課題について触れてはいますが、過去の取組などがまとめて書かれていないと思います。</p> <p>それがないと各取組の指標や説明の部分に入っていけないのではないかという気がします。</p> <p>構成自体は良いと思いますが、序章のところで生物多様性が必要というのがありきでスタートしているようにも読めるので、「生物多様性が崩れたら大変だよ。」などと書いてあげるところからスタートすることが必要だと思いました。</p> <p>また、今回、構成を変えたことで、各取組が生物多様性につながるというところが、無くなっていると思います。</p> <p>私は、森林が専門なのですが、木が生物多様性につながるということが理解できていない人は多いと思いますし、木を切ること自体が良くないこととされています。</p> <p>しかし、現状は、手入れ不足で真っ暗で草も生えていない悪い状態の山が多いです。木を切ることによって明るくなり、草も生え、木が育ち、葉が落ちて、昆虫や小動物、鳥が来て、生物多様性につながるというような流れがないと、具体的な取組があっても、なぜそれにつながるというのが分からないという気がしますので、それを現状と課題のところに入れた方が良いかと思います。</p>
<p>小宮係長</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p>
<p>土屋部会長</p>	<p>ほかに何かございますか。</p> <p>無いようですので、次の案件2の（3）序章第1節の内容について事務局から御説明をお願いします。</p>
<p>佐藤副主幹</p>	<p>《佐藤副主幹資料に基づいて説明》</p>

土屋部会長	<p>ただいま事務局か御説明がありました。皆様から何か御意見ございますでしょうか。</p>
窪田委員	<p>1の3と1の4に関係しますが、ネイチャーポジティブとクライベントポジティブは、別々の枠で議論されることが多いと思います。1の3「第4の危機：気候変動による危機」と書かれていますが、生物多様性が気候変動にどのような影響を与えるのかをリンクさせて見ていただきたいと思います。</p>
青砥委員	<p>同じことを考えていたのですが、1の7の「私たちができることは」のところにも、気候変動対応の部分を深く絡めて共通に盛り込む必要があると思います。</p>
菅委員	<p>1の7が1番肝になる部分だと思います。</p> <p>冊子を読んだときに、自分たちが身近な場所でどんな行動ができるかということが見て取れていないと頭に入らないと思います。</p> <p>「私たちにできることは」の中で、段階を分けてはどうでしょうか。大企業でしかできないことと、学校や子供たちができること、生活している中でできることというのを分けて取り上げていくと、「やってみよう」とか「多様性の本にそういうのが載っているよ」など広がっていく気がします。</p>
小宮係長	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>具体的に記載したものを示した際には、さらに細かい御意見、御提案をいただきたいと思います。</p>
青砥委員	<p>この生態系サービスに関して、大人だけではなく子供にも理解してもらうことがすごく大事だと思います。</p> <p>そのときに、子供に分かるような簡単な言葉で言い換えが出来れば良いと思いますが、その辺を工夫することで、広がっていくことにつながると思います。</p>

佐藤副主幹	見せ方として、コラムや例のようなものを挟みながら分かりやすく見せる工夫が必要だと思っています。
小宮係長	戦略は全ての市民の方が対象ですので、この戦略案は今後改定を進める上でベースになっていくものだと思っています。そこから、例えば青砥委員がおっしゃったような子供にも分かるようにとか、このターゲットにはこうしようというお考えをいただけるとありがたいと考えています。
向山課長	<p>戦略のタイトルももう少し分かりやすいものにして、内部的には生物多様性あつぎ戦略という言葉はサブタイトルでも良いということも考えております。また、生物多様性という言葉の浸透や意味の理解が当面の目標でも良いのではないかとされているところもあります。</p> <p>そのようなことから次期戦略は、序章部分を抜き出して、例えば、学校で生徒に配られているタブレットなどでも環境教育の教材として使えるものにしたいと考えております。</p> <p>序章を大事にしたいというイメージでおりますので、その部分を分からない人に説明するには、どのような構成が良いかを是非、御意見をいただけるとありがたいと思います。</p>
青砥委員	今の学校の子供たちは、タブレットが1人1台使えるようになっていますから、教育の場に情報を発信するということはすごく良いと思います。今までの計画や戦略は市民への情報公開が大きくできていなかったと思いますので、是非、活用してもらいたいと思います。
佐藤副主幹	<p>ありがとうございます。</p> <p>生物多様性については、伝えるということが第1歩だと常に思います。難しい言葉ではありますが、大事なものなので、どうにか伝わるものを作りたいと考えています。</p>
土屋部会長	ほかに何かございますか。

	<p>続きまして、次第の（４）につきまして委員の皆様から御意見がございますでしょうか。</p> <p>公園や自然観察イベントなどの紹介に連絡先など入口になるところを加えた方が良くと思います。</p> <p>タブレットであればリンクを繋げることができますし、タブレットが使えない方であれば、冊子を見て連絡や行動ができるように、一覧表みたいなものがあると全てのターゲットに分かりやすく丁寧かと思えます。</p>
菅委員	
小宮係長	御意見ありがとうございます。
土屋部会長	<p>ほかに何かございますか。</p> <p>無いようですので、事務局にお返しします。</p>
小宮係長	<p>次第に戻らせていただきます。次第の３「その他」について、委員の皆様から本日の案件以外で、何か御意見や御質問、御連絡事項等がありましたらお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これをもちまして、本日の審議会を終了いたします。</p>

